

～みなさん「想い」を聞いてください～



みなさん元気ですか。今年の梅雨は、長く感じられます、みなさんはどうでしょうか？さて、7月豪雨災害がもたらした甚大な被害により、亡くなられました皆様に、お悔やみを申し上げ、被害にあわれた方に対して、お見舞いを申し上げます。

災害は毎年あるものとして、防災意識を高め、自らの命を守る行動をとるようにしましょう。

◆「被爆を生きて」読み共感(八島指導員)

7月9日夕方、浅原晃さんからの電話がきっかけで、当センター内に保管してあった、原爆被爆者体験記「被爆を生きて」(2003年8月4日発行)について、興味が湧き、読んでみました。

本の「あとがき」の一文を抜粋し紹介します。

2001年8月4日歴史の殻の中に閉じ込められようとしていたヒロシマの被爆体験を、未来への警鐘として新しい世紀を迎えた。この機会に原爆被爆者187名は共に連帯して、高宮町原爆被爆者友の会を結成しました。2002年度の最大事業として、一步を踏み出す意思を結集し自らの「原爆被爆体験記の集録と編集活動」を進めることを決意しました。戦後58年、戦争、原爆、そして戦後と苦闘の人生でありました。この悲しく、痛ましい、

焦熱的^{しょうねつてき}地獄の歴史的な事実は、どんなに時代が移り、若い世代に変わろうとも、永久に忘れられない事実であります。こうした過ちを一身に背負ってきた私たちが、将来を見据え

なければならないこと、このたび『語ることから、^{つた}伝えていく』ことが最もいそがなければならない責務であると考え、原爆被爆者体験記『被爆を生きて』を、発刊の運びとなりました。原爆で非業の死を遂げた方々、そしてすべての戦争犠牲者に思いを馳せ、原爆のもたらした地獄の惨苦や絶望を乗り越えて人間であり続けた事実を書きとどめていただきました。こうした被爆者自らの発信が、「真の平和の世紀」を創る力になると信じて広く紹介するものであります。

38名の方の被爆体験は、強烈に記憶に残り、心を揺さぶるものでした。印象深い一文を紹介します。

●建物の下敷きとなって、・・・(省略)・・・助けることもかなわず身近に迫ってくる猛火の中で、「お母さん逃げて」という子の悲痛な叫びを聞きながら、胸は引き裂かれる思いで心を鬼にして、可愛い我が子を残していった母親等。

●生死を共にした18歳の亡き戦友149名の爆死の友に対して、一人生き残った者としての償いは哀悼の意を心におきながら精いっぱい働き、働き通させていただく生涯でなければ、ならないと心に深く刻む毎日である。

この本に寄せられたみなさんの顔を思い浮かべながら読むことができ、深い共感と共に、胸に込みあげてくるものを感じました。原爆に由来する怒り、悲しみ、苦しみ、差別、絶望、不安、生き残ったことへの仲間・家族に対する申し訳なさ等、多くの気持ちが複雑に絡み合い、更に、決して戦争・原爆を二度と繰り返してはならない強い想いと、後世にこの事実を伝える強い意志と責任が伝わってきました。私は、戦争・被爆体験はありません。しかし、みなさんの平和への強い想いはこの本を読み共感することができました。今を生きる者の一人として、この事実・想いを多くの方へ伝えたいと思います。

被爆から75年、「高宮町原爆被爆者友の会」は、高齢化により組織維持が出来なくなりました。現在は、世界人権宣言高宮実行委員会と共に「高宮原爆被爆者の会」として活動を継続されておられます。苦しみ続けながら、自らの責任として活動を続けていかなければならない現実。何度も何度も折れてしまいそうな心と向き合いながら、誇りを持ち生きてこられました。

市民のみなさん、この高宮の地で生きてこられた被爆者の想いを知ってください。そして、出来れば、この本を読んでほしいと思います。

追伸、「被爆を生きて」についてのお問い合わせは、たかみや人権福祉センターまでご連絡をお願いします。

突然ですが

◆「はいせつ」のお困りごとはありませんか？（田村相談員）

当センターでは、排泄ケアのことを、もっと身近にもっと気軽に皆さんとお話できるというなと思い、紙おむつや尿取りパッドなどの排泄ケアグッズを手にとってみて頂けるように紹介をしています。

ドラッグストアで袋に入って売られている商品が一体どんな物なのか、我が家の場合にはどれが適しているのか等、よくわからないことが多かったですか？

お気軽に当センターにお越しいただき、見て、触って、知って頂ければと思います。「こんな物があるんだー」とか、「使い方が間違ってたー」

とか、新しい気づきに出会えるかもしれないですよ。

